



新春トップインタビュー

株式会社ニップン

前鶴俊哉社長

今年2月には念願の知多工場稼働を控えるニッポン。一から工場を立ち上げるのは40年ぶりとなり、最新鋭の技術がふんだんに盛り込まれる。一方、米高騰の影響を受け、パスタ製品では一部休売に追い込まれる製品もあるなど、外部環境の変化で厳しい局面がみられたカテゴリーもあつた。中期目標の最終年度を迎えるに邁進するともに、知多工場建設後をも見据え、次の成長につなげると語る前鶴俊哉社長に、ニッポンのこれまでとこれからを聞いた。

(聞き手 石母田健、まとめ川田岳郎)

売れ行きに響くという現象もみいく。

られた。全体をみると堅調ではあるが、家庭用や海外など個々には課題が多いと思っている。――将来に向けた投資に力を入れてきたユタ製粉社の製粉製造ライン 製粉事業は、輸入小麦の政府壳渡価格が下がるなか、利益目標が確保できたので、かなりの高得点。一方、食品事業のなかでもパスタは波が荒れていた。

中期計画終了後のステップを考え、次の成長につなげていく

転に入っている。新工場の建設時こそ、最新鋭の技術を入れるまたとない機会であり、I.T.制御系など工場の状況の見える化を図っている。臨海工場であり、知多埠頭サイロからダイレクトに原料を搬入できることや、省人化が図れることなどメリット

も多い。安全面では地震への対応も行い、AIロボットを活用することで限りなく人のいない状態での運搬など、安全・安心な製品を安定的に届けるための工夫がなされている。

—2026年の意気込みを

部長以上を除く社員との面談を順次進めている。健康で働きがいのある会社にして欲しいと思っている。社長として尽力するので、社員もいい仕事をするために、スキルを磨いていくてほしい。

やつたら当社を成長させるか
考えてきた。次の成長につなげ
ていくための足場づくりをして
いく。PBRを上げていく努力
をする。ユタ製粉社や知多工場
には設備の増設余地もあるの
で、設備投資や将来の拡張も検
討していく。

アの数が増えないなか、節約志向の影響を受けており、なかなか売りにくい状況になつている。しかも、野菜などの原材料コストが上がつており、冷食・中食は苦労したが、全体的には健闘したと思う。

——知多工場の竣工が控えて

いる

知多工場が稼働すると償却費

目標を達成できるようあらゆる努力をしていく。知多工場を安定期的に稼働させ、可能な限り早く、閉鎖する名古屋工場と大阪工場の生産を知多工場に移転させたい。償却費はかかるが、安定期的に稼働させて投資を回収していく。製粉工場は、常に更新させていかねばならず、竣工前ではあるが早くも次のステップ